



## タイで仏門に入って

明治大学 情報コミュニケーション学部 4年

林田 雄一郎

私がタイに留学に来てから約8ヶ月の歳月が経過しました。はじめはほとんどわからなかったタイ語も、今では東京外国語大学のタイ語専攻の学生と肩を並べて授業を受けるまでになり、その言葉が使われている現地に留学することにより、得られるものは大きいと強く実感しました。

さらに私のタイ語能力が大きく伸びた理由としてタイでの出家経験があげられます。多くの方は留学に行ったのに出家??ということ?と思われると思います。タイという国は国民の90%以上が仏教徒の仏教国です。国は正式に国の宗教として認めている訳ではありませんが、様々な行事に仏教が関わっていたり、学校の授業の中で仏教に関する教えがあったりとタイ人の価値観や文化などにも大きく影響しています。

そこでタイの文化を知るため、タイのお寺で1ヶ月間出家をすることにしました。タイでは一般の方でも出家をすることができ、私のお寺では最低2週間の出家生活ののちに還俗することができます。タイの男性は、20歳の成人後に正式な僧侶として出家することが可能になり、出家を経ることで男性は一人前になると伝統的に考えられていて、結婚などの前に出家をする方も多いです。

タイで出家をするには、まず7分間にも及ぶ出家のためのお経を暗記しなければなりません。お経はタイ文字で書かれていますが、もとの仏教経典はバーリ語と呼ばれる仏教誕生の地、インドの言葉です。

ですから、たとえタイ文字が読めて発音はできても意味はわかりません。私もそんなお経をほぼ音だけで丸暗記してなんとかお経のテストに合格し、出家することが可能になりました。

しかし、より大変なのは出家をしてからでした。タイのお寺でタイ人用の出家のプログラムに参加したので、当然のように全員タイ語がしゃべれる前提で色々と話が進んでいきます。私が出家したのは11月。その時も既にある程度はしゃべれるようになっていましたが、ネイティブに比べればしゃべれないも同然です。ただ、私が唯一の外国人であったこともあり、他のタイ人の修行僧の方も僕を気にかけて色々と助けてくれました。出家中は227も存在する戒律を守りながら生活しなければなりません。例えば、絶対に犯してはいけないルールですと、殺生の禁止があります。それはたとえ相手が蚊であったとしても同様です。さらに僧侶は走ってはいけない、携帯電話の使用やテレビなどの娯楽、など普通の人が出たところで



出家の日の朝。シーナカリンウィロート大学の職員、プラニーさんが髪を切ってくださいました



何とも言われなような通常の行動でさえ禁止されています。またおそらくもっとも多くの方が大変と思われるのが、昼の12時以降は何も食べることができないというルールです。出家というのは煩悩に溢れた俗世を離れ、自分を見つめ直すことに意義がありますので、出家をしている間は自分の欲望のままに生きることはできません。そうした厳しい戒律を共に守りながら、タイ人の価値観の根幹に存在する仏教というものに触れ、その経験を共有できたことはタイの国の文化を理解する上で非常に有用であると感じました。

この出家を通して、1ヶ月日本語を話さなかったのでタイ語能力も大きく向上しました。しかし、言葉さえ喋ればいいのかというと、そういう訳ではないと思います。それぞれの国に暮らす人々には言葉が会話のためのツールとして存在する一方、幼い頃からの習慣、風習などによって築かれたお互いが共通する価値観のようなものがあります。そういったものを理解するためにはただ、その言葉の使われている国に行き、生活すればいいわけではありません。できることなら四六時中一緒に生活し、食事を共にし、そういった国ごとの文化が現れる部分で生活を共有することが大事であるように今回の出家を通して感じました。これから留学を志す方などはそういった部分も含めて留学生活を送るとより良い経験が得られるのではないかと思います。



共に出家したタイ人の修行僧とともに

【はやしだ ゆういちろう ・ 情報コミュニケーション学部 協定留学生（交換留学生）

2013年5月よりシーナカリンウィロート大学（SWU）に留学中】